樫原廃寺発掘調査概要

昭和55年度

京都市埋蔵文化財調査センター
財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

序

いうまでもなく京都市は、わが国随一といわれる歴史の堆積地であり、そこに埋没している遺跡、遺構、遺物は質、量ともに他の比肩を許さないものであります。

平安の開都以来、千有余年、王城の地としてわが国文化の創出、集散を重ねてきた本市の地下土層には、京都の歴史、日本の歴史が凝縮され、眠っております。さらに近年は、平安の開都以前、いわゆる先史時代の文化遺跡までも、その存在が確かめられ、いよいよ埋蔵文化財包蔵地としての評価を高めつつあります。

しかしながら、京都市はまた、古代から近代にいたるまで、王城の地として途切れることなく生きつづけ、今日もなお 150万の大都会として、明日へ向って発展をつづけているという他に類例をみない特異な街でもあります。このことは、保存、保護すべき埋蔵文化財が、常に大都市の活動の前に、破壊、滅失の危機にさらされていることにほかなりません。この現状に対応するには、可能な限り、これら歴史の物証を破壊、滅失から護り、光をあて、その意味するところを解明し、位置づけをして真の歴史の構築に役立たせること、とあわせて先人の貴重な遺産として後代に引継ぐのが、われわれに課せられた責務であると考えます。

このため、10数年来、発掘調査による記録保存を中心に、微力を注いできましたが、本報告書も、昭和55年度分として、国の補助を受け、京都市埋蔵文化財研究所に、全面的に調査を委ねて得られた成果であります。これをもって、学術研究なり、文化財保護の一助にでもなれば、身に過ぎた喜びであります。

なお、調査にたずさわっていただいた京都市埋蔵文化財研究所ならびに、ご協力いただいた調査員、事業者の方々をはじめ、関係各位のご支援、ご協力に、心から謝意を表します。

昭和56年３月31日

京都市埋蔵文化財調査センター

例　　言

1　本書は、財団法人京都市埋蔵文化財研究所が京都市埋蔵文化財調査センターから委託を受けて実施した文化庁国庫補助を伴う昭和55年度の樫原廃寺発掘調査概要報告書である。

2　本書の編集、校正は京都市埋蔵文化財研究所調査部が行った。

3　本書の執筆、使用写真の撮影は平尾政幸が行った。

4　本書に使用した位置図は、京都市都市計画局発行の 2,500分の1の地図を部分掲載した。

目　　次

はじめに……1
調査概要……2
まとめ……3

挿図目次

図1　調査地位置図……1
図2　調査区付近図……2
図3　2トレンチ西壁土層図……3
図4　出土遺物……3
図5　遺構平面図……4

図版目次

図版一　遺跡　1　調査区遠景（南から）
　　2　調査区近景（東から）
図版二　遺跡　1　1トレンチ全景（西から）
　　2　2トレンチ全景（北西から）
図版三　遺跡　1　2トレンチ南壁断面（北から）
　　2　調査風景

はじめに

樫原廃寺は京都盆地の西端、長岡丘陵の東麓海抜35～40m前後に位置する。付近には北方約 750mに、前期の前方後円墳天皇ノ杜古墳、南方約 200mには弥生時代から平安時代にかけての土器散布地である樫原遺跡などがあり、樫原遺跡の範囲には奈良時代前期の瓦窯が2基存在していたことも知られている。

樫原廃寺の遺跡は、昭和42年の発掘調査によって八角形の瓦積基壇をもつ塔、中門、築地などが発見され、寺域の南半部が確認されている。またその時出土した軒瓦からこの寺院の創建は7世紀中葉に推定され、八角塔の古い例として注目を集めた。調査後に保存整備が行なわれ、塔、門の基壇などが復元され、現在樫原史跡公園として市民に利用されている。遺跡はさらに北方へ拡がっているものと考えられ、今回史跡公園の北東部で範囲確認のため発掘調査を行なった。調査地は寺域の東限にかかり、築地およびその雨落溝等の検出が予想された。調査は昭和56年1月21日から2月4日までを発掘作業に、その後2月14日までを整理作業にあてた。

図1　調査地点位置図

調査概要

調査区は史跡公園の北東部、東築地の延長上にあたり、公園やその北側の畑地より約1mの段差を持ち低くなっている。公園北側の畑の中央やや南寄り、塔跡の北の部分には、わずかな盛り上りが見え、堂址の遺構が推定されている。

調査は築地延長線上に2本の東西トレンチを設け行なった。南から1トレンチ、2トレンチと呼称する。両トレンチともに中世から近世の削平を著しく受けており、樫原廃寺に関係する遺構は検出できなかった。厚さ約20cmの耕土下に近世層が20～30cm推積しており、その下に中世層が部分的に残っていた。検出した柱穴、土坑等はすべて中世以降のものである。各遺構からは少量の土器片が出土しているが、それらに混って樫原廃寺のものと見

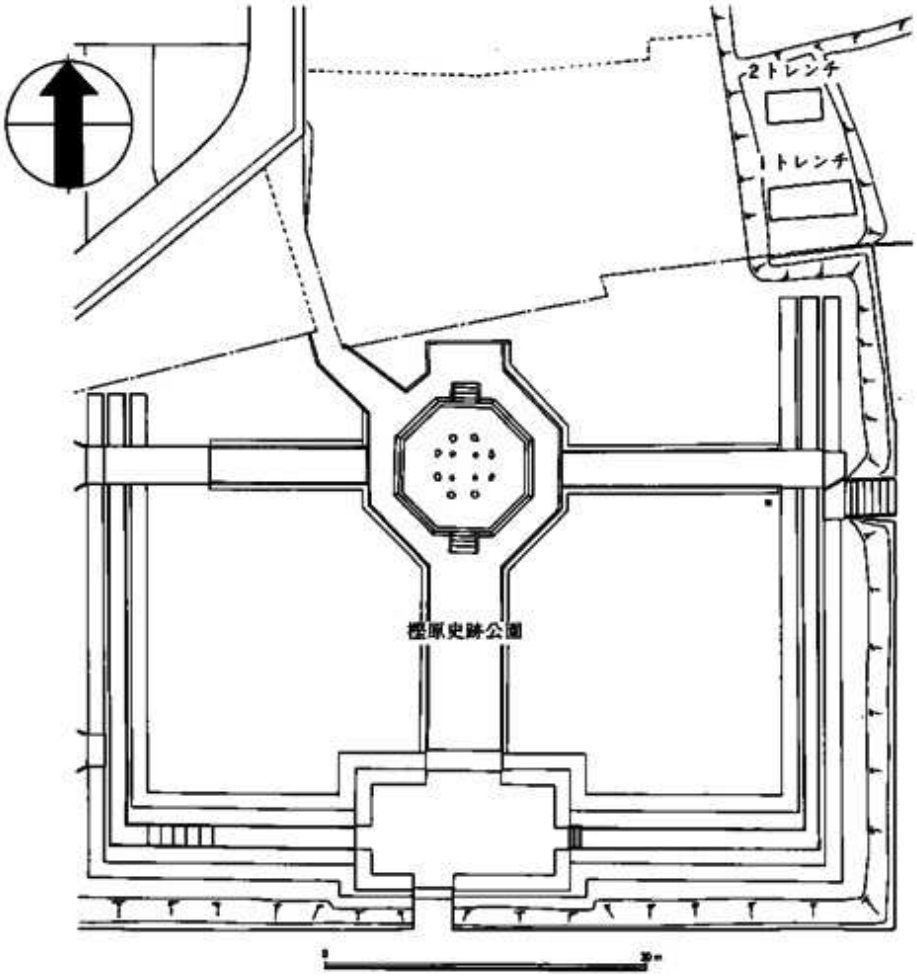

図2　調査区付近図

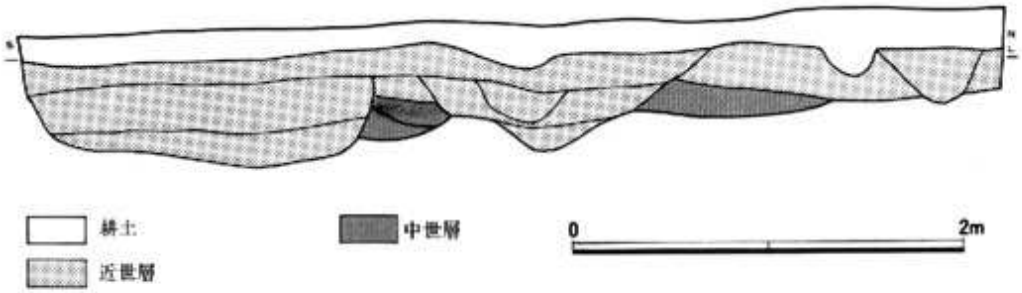

図3　2トレンチ南壁土層図

られる瓦片がかなり出土した。その大部分は平瓦、丸瓦であるが、顎の下面に単弁蓮華文を押刻した軒平瓦(図4の下)が一点出土している。中世の遺物は土師器、瓦器、白磁等が出土しているが、そのほとんどが細片で詳細は不明である。2トレンチの柱穴から完全な形の瓦器椀(図4の上)が出土しているが、土器類で全形のわかるのはこの一点だけである。瓦器椀は粗いヘラ磨きが施され、高台はほとんど退化している。室町時代のものであろう。

まとめ

今回の調査では樫原廃寺に関連する明確な遺構を確認することはできなかった。これは調査区付近が後世の削平を受けたためと考えられ、調査区西側の一段高い部分には遺構が良好な状態で残っていることが推察される。

京都市内に所在する樫原廃寺と同様な遺跡としては、北野廃寺、北白川廃寺、平川廃寺、大宅廃寺等があげられるが、いずれも全体の規模を知るまでには至っておらず、遺構の残存状態、周囲の状況など考え合せると樫原廃寺がその中でも最も良好なものといえよう。今後の調査に期するところが大きい。

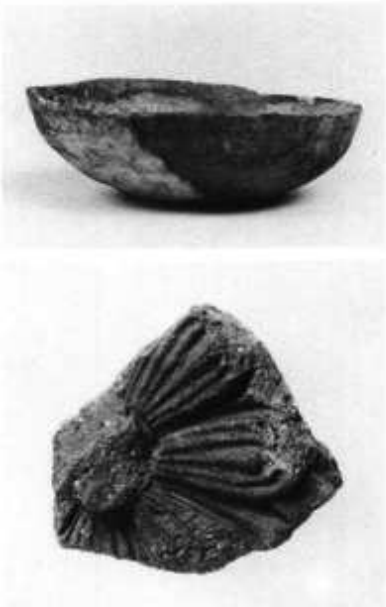

図4　出土遺物

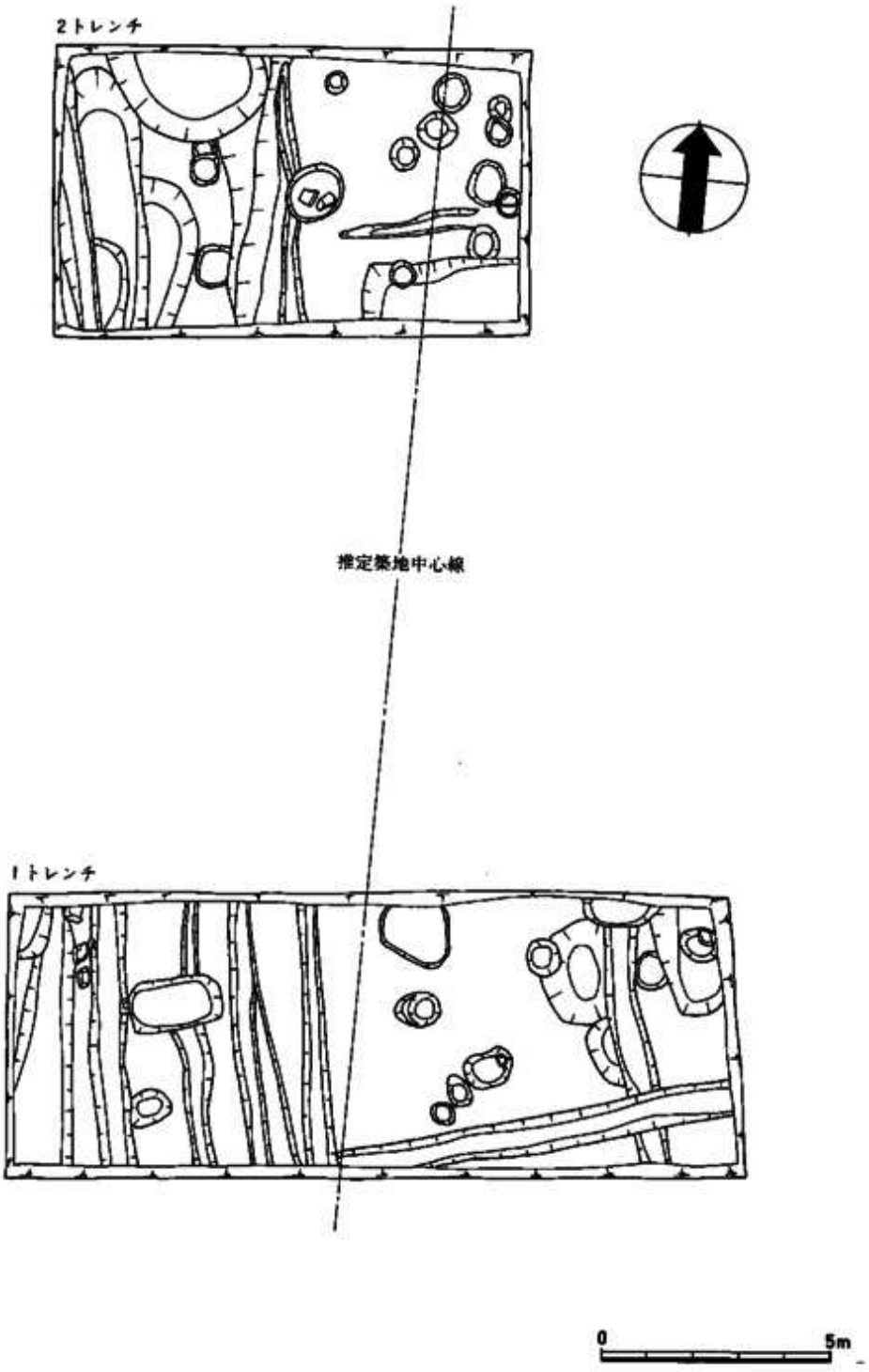

図5　遺構平面図

1　調査区遠景(南から)

2　調査区近景(東から)

1　1トレンチ全景(西から)

2　2トレンチ全景(北西から)

1　2トレンチ南壁断面(北から)

2　調査風景

樫原廃寺発掘調査概要

昭和55年度

発行日　昭和56年3月31日

発　行　京都市埋蔵文化財調査センター

住　所　京都市上京区今出川大宮東入ル元伊佐町
TEL (075) 441－5261

編　集　財団法人　京都市埋蔵文化財研究所

住　所　京都市上京区今出川大宮東入ル元伊佐町
TEL (075) 415－0521

印　刷　真　陽　社